

記入例及び解説

東海市木造住宅耐震診断申込書（平成12年5月以前新耐震基準用）

令和8年 4月15日

申込者	ふりがな	とうかい たろう	
	氏名	東海太郎	
	住所	東海市中心一丁目1番地	
	電話番号	052-603-2211	
住宅の概要	所在地	(申込者住所と異なる場合に記入して下さい)	
	建築年月日	平成	元年 1月 ・ 不明
	増築の有無	有 ・ 無	
	構造	在来軸組構法 (ツバモノ、木質プレブは除く) ・ 伝統構法 *その他及び併用の構造は対象外です	
	住宅の規模	平屋建て ・ 2階建て	延べ面積 125.5 m ² ・ 坪
	利用形態	専用住宅 ・ 長屋 ・ 併用住宅	持ち家 ・ 貸家
その他必要事項	<input checked="" type="checkbox"/> 対象の住宅は混構造ではありません。 <input checked="" type="checkbox"/> 対象の住宅は過去に市が実施する無料耐震診断を受けていません。 <input type="checkbox"/> 耐震改修を強く希望し、診断結果を耐震改修の参考にしたいため、2回目の無料耐震診断を希望します。 <input checked="" type="checkbox"/> 東海市が審査等の必要のために、私に係る市税の納付状況についての個人情報の目的外利用をすることに同意します。		

【木造住宅の耐震性能チェック（所有者等による検証）】

裏面の回答結果	判定 (いずれかに○)	専門家による無料耐震診断
チェック1~3でひとつでも「いいえ」がある、またはチェック4で3点以下の場合	専門家による検証が必要	<input checked="" type="checkbox"/> 希望する
チェック1~3ですべて「はい」かつ、チェック4で4点以上の場合	一応倒壊しない ※地盤については考慮していない	(対象外)

ステップ1 「新耐震木造住宅検証法」の対象となる住宅かチェック

昭和56年6月から平成12年5月までの間に建てられた木造住宅ですか？ いいえ はい (建築年月: 平成元年 1月)

在来軸組構法の住宅で基礎がコンクリート造ですか？ いいえ (よくわからない・基礎がコンクリート造ではない) はい

平屋建て、または2階建てで、全ての階が木造ですか？ いいえ (3階建て・1階が鉄筋コンクリート造または鉄骨造) はい (平屋建て・**2階建て**)

裏面の「所有者等による検証」へお進みください。



記入手順

- ① 表面下段【ステップ1「新耐震木造住宅検証法」の対象となる住宅かチェック】を実施
※「裏面の「所有者等による検証」へお進みください。」となったら裏面へ
↓
- ② 裏面【ステップ2 所有者等による検証】を実施
↓
- ③ 表面中段【木造住宅の耐震性能チェック(所有者等による検証)】を実施
※「専門家による検証が必要」の判定の場合は無料耐震診断対象
↓
- ④ 表面上段「申込者・住宅の概要・その他必要事項」を記入
↓
- ⑤ 東海市建築住宅課へ提出

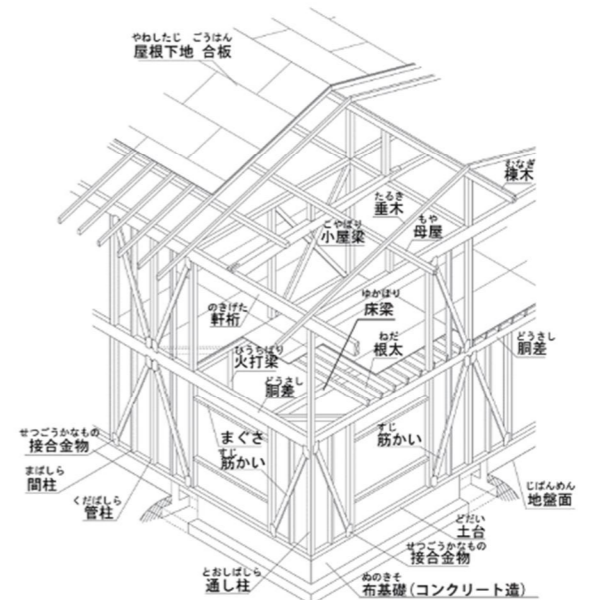
記載例の場合

チェック1:「はい」
 チェック2:「いいえ」
 チェック3:「はい」
 チェック4:合計2点
 これより、チェック2で「いいえ」、またチェック4で3点以下のため、「専門家による検証が必要」であり、無料耐震診断の対象になります。



在来軸組構法の家の例

在来軸組構法とは
 右の図のように木製の柱(10cm程度角)・はり等(土台、胴差、軒桁など)と筋かいの入った壁で家を組み立てる一般的な建築方法です。柱と柱の間隔は90cm程度から180cm程度で配置されています。天井裏や床下をのぞくと、柱を確認することができます



出典:「木造住宅の耐震性能チェック(所有者等による検証)」(日本建築防災協会)

ステップ2 所有者等による検証

チェック1 平面形状、立面の形状は整形ですか？

はい (比較的整形です)

いいえ (不整形・よくわからない)

図を参考に、平面・立面の形状が整形か確認してください。1階がガレージなどで、2階が飛び出ているような形状は不整形とします。

チェック2 柱とはりの接合部に接合金物が使われていますか？

はい (金物が使われている)

いいえ (接合金物が使われていない・よくわからない)

接合金物は図のような金物です。(図は柱の下部ですが、柱の上部にも同様に金物を使用されます。)かすがいや釘打ちのみの場合は接合金物に該当しませんのでご注意ください。

図面から接合金物が確認できる場合もありますが、確認できない場合には、天井裏や床下からのぞいて、柱とはり等の接合部に、接合金物が使われているかどうかを確認してください。

チェック3 1階の外壁面(4面)で、窓やドアなどの開口のない壁の長さの割合は0.3以上ですか？

はい (すべての面で0.3以上である)

いいえ (ひとつの面でも0.3未満がある・よくわからない)

描画欄

A面 $3 \div 8 = 0.37$

B面 $4 \div 6 = 0.6$

C面 $5 \div 8 = 0.6$

D面 $3 \div 6 = 0.5$

(計算例)

平面図

5構面(壁) ÷ 8構面(全面) = 0.625 ≥ 0.3

立面図

1階の外壁面について4面とも個別に計算します。
窓やドアなどの開口のない壁(右の図のグレーの部分)の長さの割合
(窓やドアなどの開口のない壁の長さ/壁の長さ全体) ≥ 0.3

記載例は、A面が最も低い値となりますが、窓やドアなどの開口のない壁の長さの割合は全ての面で0.3以上が確認された例です。

チェック4 劣化のチェック 合計 2 点

	外壁	屋根	基礎	床	浴室
1点	ひび割れや剥落、水浸み痕、こげ、腐朽などが全くない。あるいは、定期的メンテナンスを行っている。	瓦やスレートが健全で、棟や軒がまっすぐで波打ったりしていない。あるいは、定期的メンテナンスを行っている。	ひび割れが無く健全である。あるいは、定期的メンテナンスを行っている。	傾斜が無く、大きなたわみや振動がない。あるいは、リフォームを行っている。	ユニットバス。あるいは、リフォームを行っている。
0点	ひび割れや剥落、水浸み痕、こげ、腐朽などがある。	瓦やスレートが割れたり、棟や軒が下がったり波打ったりしている。	ひび割れが散見される。	傾斜がある。または過度のたわみや振動がある。	タイル貼りなどの在来浴室。

0点となる場合の例

外壁

外壁にこげがある

外壁にひび割れがある

屋根

瓦が波を打っている

スレートにひび割れがある

基礎

基礎にひび割れがある